「心身障害児の適正就学のために地域の人々や保護者の理解と協力を得るにはどうすればよいか。」

②出席者数　九十一名

③問題提起者

●石川町教育委員会

指導主事　飯島　裕

就学指導については、関係機関の協力を得て、就学相談や家庭訪問を中心に行ってきました。

保護者は特殊学級に入れることへの心配があり、それを早く取り除いてやることが大切です。

そのためには、学校教育活動全体の中で、心身障害児理解のための教育をする。

保護者に対しては、PTA活動等を通して各家庭へ働きかける。また「行政だより」や「広報」等を活用する。との発表がなされました。

●福島県立西郷養護学校

教諭　加藤浩二

平成三年度に文部省から「心身障害児適正就学推進研究」の指定を受け、取り組んできた概要について発表がなされました。

その成果として、次の五点をあげていました。

①継続的な調査、相談、就学指導の実施により、適正な就学を図ることができた。

②数回の個別体験学習を行ったため、その都度、保護者との話し合いもでき、信頼関係を深めることができた。

③幼児教育担当者や保健所の家庭指導員と障害児について共通の話し合いの場をつくることができた。

④教育委員会、福祉事務所等関係機関と連携を深めることができた。

⑤校内における適正就学の意識向上を図ることができた。

(三)第三分科会

①テーマ

「適正就学のために、学校はどのように取り組めばよいか」

②出席者数　六十二名

③問題提起者

●石川町立石川小学校

教諭　増子　右多子

特殊学級在籍の児童生徒は、減少の傾向にある。また障害も多様化・重複化している。このような現状での学校の就学指導の実際について、次の四点を課題とした発表がなされました。

①一年生は、観察期間がほしい。

②複数担任制度等の運用がほしい。

③特殊教育がよく理解される必要がある。

④市町村間の横の連携と研修の場がほしい。

●福島県立石川養護学校

教諭　深谷久子

石川地方就学指導審議会を通して適正就学の取り組みがなされているが、特に本校では保健所主催の幼児発達相談会や交流会等に積極的に参加している。

そこでは、中央児童相談所相談員や心理判定員、療育センター医師等との連携のもとに相談機能が充実している。

適正就学のため積極的に地域社会に働きかけ、専門機関との有機的な連携を深めながら、早期から保護者の多様なニーズにも対応している。との発表がなされました。

平成4年度石川小学校心身障害児校内就学指導年間計画

月	事　　項	内　　容
4	○平成4年度心身障害児校内就学指導計画の作成 ○養護学級経営について	●前年度の反省をもとに計画を作成する ●入級児の実態について共通の理解をはかる。 ●協力学級担任の確認
5 6 7 8	○各学級における児童の実態把握 ●養護学級児童 ●通常学級児童	●入級候補の該当者の有無の確認 ●行動観察　●学力検査 ●知能検査　●性格検査 ●検査結果の整理
9	○第1回校内就学指導委員会 ○校内就学指導委員会へ入級候補の報告児童（各学級担任より） ○第2回校内就学指導委員会 ○入退級候補児童を町教育委員会へ報告	●年間計画の確認 ●平成5年度養護学級入退級候補児童の報告についての説明 ●田研式田中ビネー知能検査の実施と実態調査表の作成 ●入退級候補児童の検討・決定
10	（教育委員会より石川地方町村心身障害児就学指導審議会へ諮問、審議会より教育委員会へ答申書の送付）	
11	○就学時健康診断 ○第3校内就学指導委員会 ○来年度入学の入級候補児童を町教育委員会へ報告 （教育委員会より石川地方町村心身障害児就学指導審議会へ諮問、審議会より教育委員会へ答申書の送付）	●知能検査　●吟味検査 ●来年度入学の入級候補児童の検討と決定
12	○保護者に対する就学指導	●審議会答申を受けて、適正就学指導をする
1		※入級対象時保護者会
2	○第4校内就学指導委員会	●就学指導の報告 ●養護学級入退級児童 ●学級編成の決定 ●校内就学指導計画の反省
3	○平成4年度資料の整備	●就学指導関係資料の整備